

稲作体験で

自然の恵みにふれる

希望ヶ丘小学校の5年生児童87名が5月20日、甲南町深川の「わくわく農園」で田植えに挑戦しました。

農園を管理している深川農地改良組合のボランティア7名の指導のもと、等間隔に植えるため目印を付けた棒に沿って、もち米の苗を植えつけます。

稲作体験は、食育や日本の歴史への理解を深める目的で毎年実施しており、収穫したもち米は、6年生を送る会で赤飯として振る舞われます。

児童たちは、慣れない泥の感触に戸惑いながら、ていねいに植え付けました。

希望ヶ丘小学校



▲丁寧に苗を植える希望ヶ丘小学校児童

土山にここに園

おじいさん、おばあさんと茶摘みで交流



▲摘み方を教わる土山にここに園児童

土山にここに園で毎年恒例の老人クラブとの交流茶摘みが、5月22日、園近くの茶畑で行われました。

同園の4・5歳児52名と、土山学区の老人クラブのメンバー22名が参加し、児童に摘み方を教えたり、摘んだ葉を見せ合ったりしながら仲良く茶摘みを体験しました。

収穫した約5キロの生葉を園に持ち帰り、蒸した葉を手で揉んで製茶する作業も行われ、児童たちは揉むごとに香り立つ茶葉の香りを楽しんでいました。

伝統的な日本文化を甲賀で体験

インド高校生訪日団

外務省の「21世紀東アジア青少年大交流計画」で来日しているインドの高校生23名が、5月19日から20日にかけて甲賀市を訪れました。

一行は環境学習としてミホミュージアムで古民家を見学し、信楽陶芸村では信楽焼の歴史や特長などを学んだ後、絵付けにも挑戦しました。

たぬきや忍者をかたどった素焼きに、色とりどりの専用塗料で彩色し、お土産として持ち帰りました。

その後、市の都市農村交流事業の一環として受け入れていただいた多羅尾地区の8軒のホームステイ先に別れ、それぞれの家庭で日本の生活や家族との交流を体験しました。



▲絵付けに熱中するインド高校生

子どもの森で国際交流

姉妹都市中学生来市

姉妹都市であるミシガン州デウィット市から甲賀市を訪れている中学生と、その引率者ら8名が5月16日、みなくち子どもの森を散策しました。

一行は、子どもの森職員に案内されて、クイズを解きながらの園内散策やキーホルダー作りを体験し、アメリカでは見かけることのない生き物や、自然環境に興味津々の様子でした。

参加された引率の先生の1人は「アフリカをはじめ色々な国に行きましたが、日本には独特な自然環境があるということを知りました。生徒にも他国の自然に触れる素晴らしい機会になったと思います。」と話されていました。



▲子どもの森職員による解説を受ける一行

自然を楽しむ、自然を学ぶ 新田学習

甲南第二小学校の児童らが5月23日、甲南町杉谷の新田地区で自然体験学習を行いました。

「新田学習」と名付けられたこの体験学習は、「こほんの里100選」に選ばれている新田地区で、自然から様々なことを学ぼうと毎年行われているものです。

学年ごとに分かれた児童らは、安全についての十分な説明を受け、ライフジャケットなどでしっかりと準備したうえで、それぞれカヌー教室や小川遊びなどを体験しました。

体験学習の様子をびわ湖放送が収録に訪れていましたが、児童は、出演者らスタッフにも捕まえた生き物を見せ合ったりして楽しんでいました。

2012年度甲賀市新就職者激励会



▲中嶋市長に抱負を述べる新就職者代表の曾和さん

期待の若いエネルギー

甲賀市内企業・事業所の新就職者を対象に甲賀市新就職者激励会が5月30日、忍の里プラザで開催され、54社から187名が参加しました。

中嶋市長より「高い志をもってしっかりと職責を果たし、地域社会を支えていただきたい」との激励の辞のあと、新就職者を代表して特別養護老人ホームせせらぎ苑曾和寛子さんより「甲賀市の経済の発展・未来に貢献していきたい」と力強いあいさつがありました。

甲南第二小学校



▲小川で夢中に生き物探し